



## 平成 29 年度 2 年グローバル課題研究（国際コース）ゼミ 学習

### ゼミ活動における研究論文作成について

SGH 課題研究の学習も 2 年目を迎えました。5 月 6 日の授業で一緒に研究作業をしていく班とともに、大まかな研究の方向性も決まりました。研究は成果を求められ、その成果の発表に論文作成は欠かせません。

冬休み明けの研究論文完成に向けて、今日からの約 8 か月間、土曜日 1～2 限はゼミ活動の形態を取りながら、学習活動を進めていきます。なお、そのうち 3 回は中部大学の大学院生の方たちから研究についての指導をしていただきます。

今回の学習の機会を通じて、皆さんには以下の 5 つの力を身に付けて欲しいと思います。

- ① 協働作業力
- ② 創造力(問題解決能力)
- ③ 批判的・論理的思考力
- ④ 情報活用能力
- ⑤ コミュニケーション能力

では、簡単にこれからの予定を示します。



### 実施日程(予定)

ゼミ①	5 月 20 日	文献調査。文献リスト・研究計画書の作成。
ゼミ②	6 月 3 日	収集した先行研究資料をもとに、具体的な問いの作成を行う。
ゼミ③	6 月 17 日	先行研究収集で得られた情報をまとめ、それらを共有する。
ゼミ④	7 月 1 日	③までで行った活動をもとに、論文作成に向けた具体的なアドバイスを大学院生の方からもらう。
企業訪問①	7 月下旬	政策提言立案に向けて、地域の企業・研究室を訪問し、質問および解決すべき課題などの聞き取り調査を行う。
ゼミ⑤	9 月 19 日	提出された「序論」について、ゼミ内で討議・情報の共有を行う。
企業訪問②	10 月上旬	政策提言立案に向けて、地域の企業・研究室を訪問し、学習状況の報告を行う。
ゼミ⑥	10 月 14 日	提出された「本論 第 1 章」について、ゼミ内で討議・情報の共有を行う。
ゼミ⑦	11 月 4 日	提出された「本論 第 2 章」について、ゼミ内で討議・情報の共有を行う。
ゼミ⑧	12 月 16 日	提出された「結論と展望」について、ゼミ内で討議・情報の共有を行う。
発表会	1 月 20 日	完成した論文をもとに要約シートを用いて、発表を行う。
企業訪問③	1 月下旬	地域の企業・研究室を訪問し、学習の報告を行い、企業の方からご高評をいただくことで実際の政策提言立案につなげる。

## 本日の授業 文献リスト・研究計画書について

### ① 先行研究・先行事例の調査

研究の手法については、文献調査、インタビュー調査、実験などが考えられますが、今回は主に文献調査について扱うこととします。インタビュー調査、実験についてはフィールドワークなどの機会を通じて適宜行っていきましょう。皆さんは自分の興味のある内容について書かれている文献を調べてください。

調べ方は、以下の2つが考えられます。

#### その1 基礎資料（例えば下記の書籍）の巻末の参考文献リストから見つける

今井昭夫・岩井美佐紀編著(2012)『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』明石書店

村井吉敬・佐伯奈津子・間瀬朋子編著(2013)『現代インドネシアを知るための60章』明石書店

今井昭夫 他(2014)『東南アジアを知るための50章』明石書店

#### その2 インターネットの検索サービスを使う

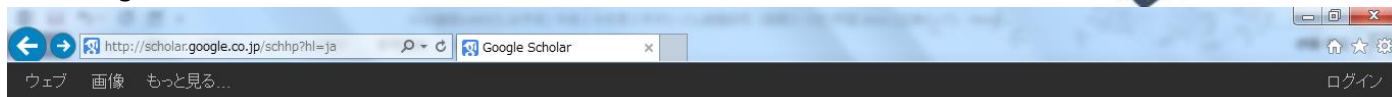
Google Scholar <http://scholar.google.co.jp/>

CiNii Articles <http://ci.nii.ac.jp/>

本日の授業では、実際にインターネットの検索サービスを使って、文献を検索してみましょう。



### 例 “Google Scholar”



検索バーに思いっ  
くキーワードを入れて、検索すると様々な文献が紹介されます。

また文献によっては、PDFファイルが公開されており、その場で閲覧できるものもあります。



[Google Scholar について](#) [プライバシー](#) [規約](#) [Google Scholar in English](#)

見つけた文献は、「文献リスト」に必要事項を記入し、該当ページのコピーとともにフォルダに綴じていきましょう。これを怠ると後で情報源が解らなくなり、大変なことになってしまいます。

### ② 研究計画書の作成について

先行研究調査の内容からリサーチクエスチョンを設定していきましょう。「研究計画書」には、漠然とした問いが具体的になるように以下の点をまとめてください。そして、根拠とともに仮説を設定してください。

- (1) 関心・興味をもった理由
- (2) 具体的な地域(どこの地域の問題なのか)
- (3) 具体的な時代(いつの時代の問題なのか)
- (4) 具体的な対象者(誰の問題なのか)
- (5) 具体的な状況(地理的な問題なのか、政治的な問題のかなど)
- (6) 解決済みの内容
- (7) 未解決の内容
- (8) 解決のために自分ができること
- (9) 解決のために働きかける対象

